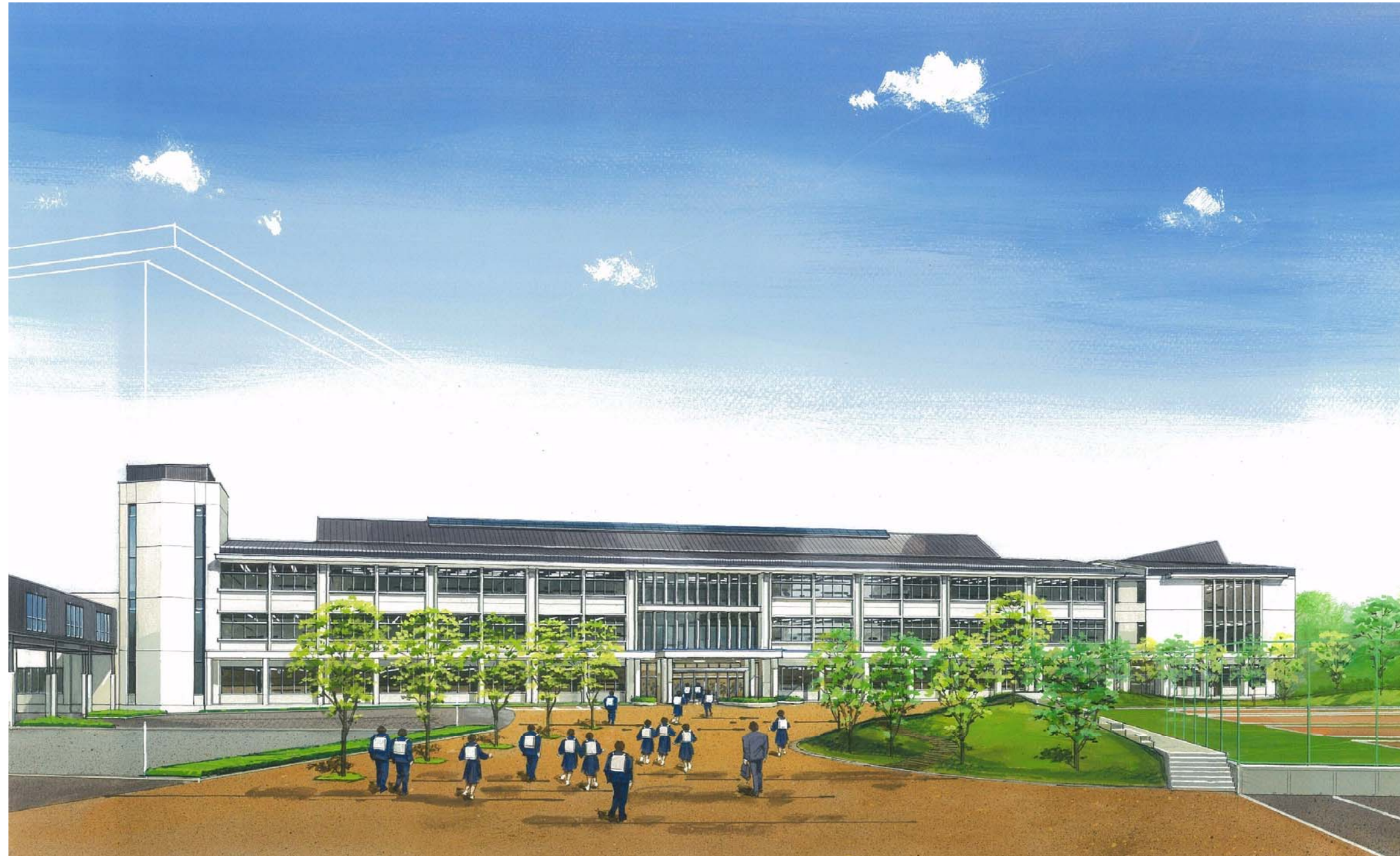


# 南陽市立宮内中学校

## データ

●名称	南陽市立宮内中学校
事業名	南陽市宮内中学校改築整備事業
所在地	山形県南陽市宮内字砂押三2303番地2
建築主	南陽市
主な用途	中学校 予定学級数：13学級(普通12+特支1)
●設計・監理	本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室 (平成20年8月実施の基本設計プロポーザルにより選定)
設計期間	平成20年10月～平成21年8月(基本設計・実施設計)
●施工	建築主体/松田・殖産特定建設工事共同企業体 電気設備/㈱ユアテック 機械設備/弘栄設備工業㈱ 厨房機器設備/㈱冷凍技術工業所
工事期間	平成21年11月20日～平成22年11月30日(工期 約12ヶ月)
●面積	
敷地面積	28,051㎡
延床面積	合計 7,370㎡(文科省算定)+既存体育館 1,369㎡ 校舎 : 5,863㎡ 武道場 : 496㎡ 共同調理場 : 1,011㎡
●主体構造	校舎：鉄筋コンクリート造・鉄筋鉄骨コンクリート造・鉄骨造 武道場：鉄筋コンクリート造・プレストレスト鉄筋コンクリート造・鉄骨造 共同調理場：鉄筋コンクリート造・鉄骨造 既存体育館：鉄筋コンクリート造・鉄骨造
●規模	
最高高	地上3階建て 19.59m
●主な設備	
空調方式	蓄熱式電気暖房器、氷蓄熱式ヒートポンプポンプエアコン
換気	全熱交換型換気扇、クールヒートチューブ換気
給排水衛生	給水/校舎：水道直圧方式 共同調理場：受水槽方式 給湯/校舎：局所式 共同調理場：中央給湯方式 排水/公共下水道(厨房排水は除害施設を経由)
電気	受電/3相3線6.6KV 変圧器容量/1,450KVA 太陽光発電装置/10kw
昇降機	乗用ELV/15人乗 1台
厨房	HACCP方式(1600食)
防災・避難	屋内消火栓、非常灯、非常放送設備、自動火災報知設備
●外部仕上げ	
屋根	赤外線反射シート敷込の上フッ素ガルバリウム鋼板縦馳葺き
外壁	RC化粧打放し+低汚染型水性無機質塗料仕上げ
建具	アルミサッシ+複層ガラス



建築主	南陽市
設計・監理	本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室
施工	建築主体/松田・殖産特定建設工事共同企業体 電気設備/㈱ユアテック 機械設備/弘栄設備工業㈱ 厨房機器設備/㈱冷凍技術工業所

ごあいさつ

南陽市長 塩田 秀雄

当市においては「人づくりこそ未来の礎」との理念により、少子化による学校経営の弊害をなくすための「中学校再編統合」、そして安全で安心な学び舎「学校耐震化100%」等、人への投資を重点とした施策を展開しており、今年度の最重点施策として、中学校再編統合にともなう宮内中学校の改築整備、そして宮内小学校の耐震化といった市内学校施設の学習環境整備を掲げました。

また、本市の安全・安心なまちづくりとして、公立学校施設は地震等の災害発生時には地域住民の避難場所としての防災拠点施設の役割を担うものであり、耐震化は急務であります。

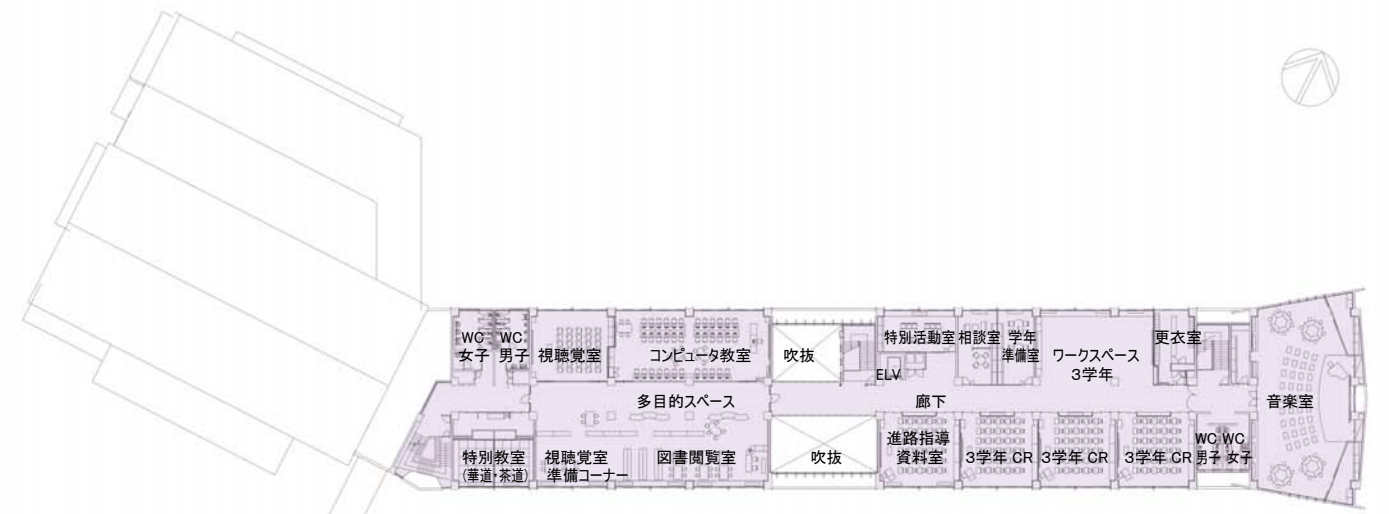
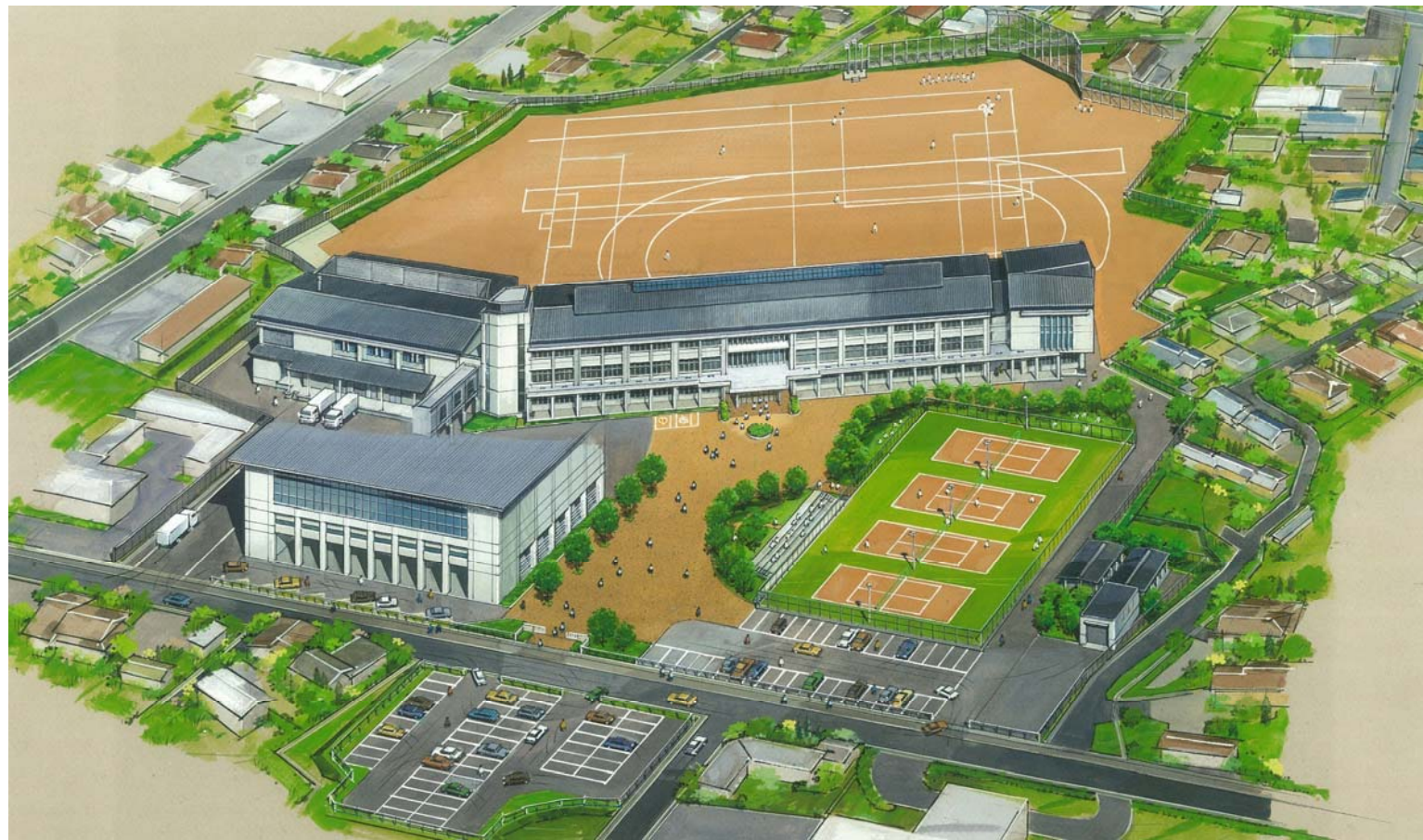
宮内中学校校舎は、昭和40～41年に建設され、すでに

40余年を経過しています。優先度調査及び耐力度調査の結果は、耐震化はもとより老朽度合いも極めて高い危険校舎と判定されたことから、早急に改築工事を行なうことにしました。あわせて、平成24年から必須となります武道の授業のための武道場整備、さらには各学校給食室の全般的問題の解決のため、共同調理場の建設を行ないます。

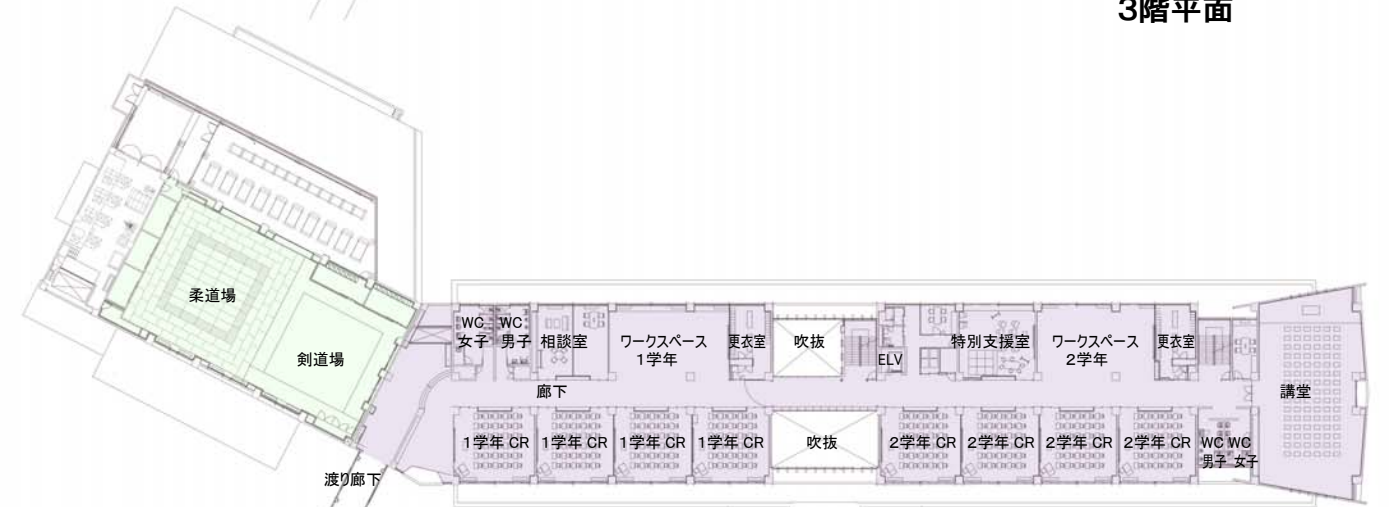
その後、継続して既存校舎の解体、さらには屋外環境整備を継続的に整備していきます。

本工事は、工期も概ね1ヵ年と短期間の工事となりますが、地域の皆様には中学校統合について格段のご理解とあわせ、本工事の完成についてもご協力・ご支援をお願い申し上げます。

また工事関係の皆様には本工事中の安全の確保と無事故をお願いし、新たな学び舎の完成を祈念いたしたいと存じます。



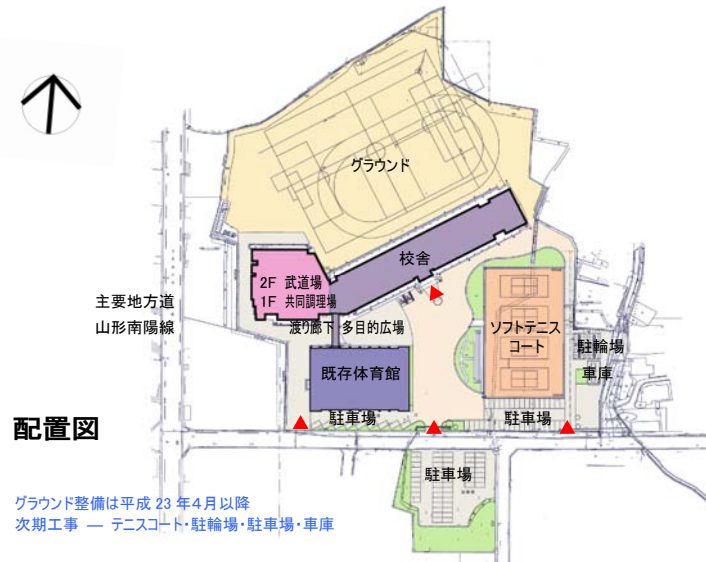
3階平面



2階平面



1階平面 1/800



配置図

グラウンド整備は平成23年4月以降  
次期工事 — テニスコート・駐輪場・駐車場・車庫

次世代の宮内を担う子供たちの原風景となる豊かな志学の場づくり

- 100年建築としての学校づくり  
長寿化 — 構造やメンテナンスへの配慮による建築の耐久性。  
負荷低減 — ソーラエネルギーの活用等、ランニングコストの削減。
- 地域・自然と共生するのびやかな環境  
宮内の風土・景観・自然に馴染む外観。緑を生かした修景。  
通風・採光の確保と断熱性や落雪・除雪を考慮。
- 使いやすく過ごしやすい人間形成の場  
学習形態の幅を広げる効率的な場の創出。

■ 全体配置計画

- 1) 新校舎を核に、敷地全体を学びのフィールドとして充実
- 2) 学校の顔づくりとしての豊かなアプローチ空間
- 3) 景観と眺望に配慮し、地域と共生する環境づくり
- 4) 明快で安全、安心感のある場づくりとしての配置計画

● アプローチ

生徒・教職員の出入りと、給食関係の搬出入の動線の分離  
緑地や散策路等により、ゆとりの感じられる前庭空間  
利便性の向上のためにアプローチに隣接した多目的広場

● 校舎棟

既存体育館・校舎との関わりに配慮しつつ、敷地の有効活用のために、敷地中央部に線状にまとめたプランとし、特に体育館とは、角度を開くことで眺望・採光上、干渉しないように配慮

■ 平面計画

- 1) 機能的なプラン、効率的で多様な場の創出
- 2) 自然と共生し、人間形成に資する教育の場の創出

● 普通教室エリア

多目的教室(ワークスペース)を中心に、一つの大きな家のように各学年ごとに諸室を配置。

● 特別教室エリア

屋外空間との連続性や音響面に配慮した特別教室の配置。  
メディアセンターとしてのコンピュータ/図書・閲覧/視聴覚室。

● 管理エリア・その他

管理しやすく安全性の確保に配慮した管理部門の配置。  
給食室に付随し、サービスしやすいランチルーム。  
教室と分離し、既存体育館とのつながりにも配慮した武道場。